

嘉徳浜調査会リーフレット Ver.1について



うやーふあーふじ（ご先祖：オヤフジ）が祀られる墓地（砂丘）は集落を守っている。墓地前面の砂浜には獰猛な魑魅魍魎（8角、8足、8尾の怪牛アハウシヤンムィなど）が棲んでいる。

■ 科学的解説：砂丘にある墓地は、そこに墓地として存在すること自体が緩衝帯となり、耕作や居住などの特定の利用を抑止して、結果的に巨大台風などの気象擾乱から集落を守り、もっとも厳しい水準で人命財産を防護している。



天から舞い降りた三人の使者は、嘉徳鍋加那（伝説の美女カトクナベカナ）の生まれ変わりとしてムリヤマ（砂丘中央と海岸北で光を放つ）から遣わされた屈強な若者たちである。

■ 科学的解説：巨大台風時において墓地やムリヤマを含む砂丘は、二つの直接的な物理的機能を有している。

- 1) 砂を開放して岸沖方向に移動して波を砕き集落を守る機能
- 2) 砂を開放して沿岸方向に移動して凹みを塞ぎ集落を守る機能

これらの砂移動の連続性の維持は、砂浜海岸の防護上の肝心かなめである（資料-8 意見書 p.10）。

一方、防災（海岸以外を含む）の最後の砦は嘉徳の将来を担う若者である。高齢者の避難誘導など、災害の種類・規模や避難対象者に応じたきめ細かいサポートと、対応可能なインフラ（総合防災塔など）が必要であり、調査会では、現在その体制と施設について検討中である。

嘉徳なべ加那は気高き女性で民謡にも唄われている。言い伝えによると嘉徳のカミヤマはムリヤマと呼ばれる。祭祀においては、赤い三角や四角の旗を押し立てて、北東側のホチノカミの岩場と、このムリヤマとのニヶ所はかならず参詣される。

カトクナベカナとアハウシヤンムィ伝説の嘉徳浜の アダンの森を復元再生する嘉徳浜調査会



イソマツ 絶滅危惧種Ⅱ類(VU)